

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント	
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学が意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	学校評価 ○生徒アンケート「馬込中学校では、学習で困ったとき適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答率は75%、保護者アンケート「学校は、生徒が学力を身に付けられるよう適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答率は82%。 ○保護者アンケート「学校は、生徒が学力を身に付けられるよう支援している」への肯定的回答率	4: 生徒80%以上 及び 保護者80%以上	3	○生徒アンケート「馬込中学校では、学習で困ったとき適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答率は75%、保護者アンケート「学校は、生徒が学力を身に付けられるよう適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答率は82%であった(保護者のアンケート回収率は82%)。 ○多くの生徒が適切な指導や助言を受けていると感じている一方、4分の1の生徒が適切な指導や助言を受けられていないと感じている。大田区学習効果測定の結果変化ではどの学年も達成率(目標を達成した生徒の割合)が上がっており、学力向上の取り組みは成果をあげているが、学習に苦手意識を持っていたり自分から積極的に取り組めない生徒がまだ一定数いることがわかる。補充的な学習や、個への学習支援をさらに改善するよう努める。 ○国語、数学、英語のコンテスト及びそれに向けての朝学習、また各種検定受験の推進や事前指導に全校体制で取り組むことにより、積極的に学習する雰囲気醸成することができた。次年度以降もコンテストや検定の活用を推進する。 ○三者面談などを通して保護者連携を取り、学習や生活面で学校と保護者が協働して生徒の育成に当たる体制を作っている。今後も引き続き、保護者との連携に努める。	○生徒自らが意欲をもって向上できる指導を今後もお願いしたい。 ○三年生になれば、少しは勉強を考えるようになるだろうが、目標を持つ子は良いが、なかなか目標をもって勉強することは難しい。 ○家庭学習と塾に通うことが同一になっていて、保護者は塾に通わせれば、勉強が出来ると思っているが、実際には、学校での順位と塾の順位はあまり変わらないので、学校での普段の勉強が大事。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 生徒70%以上 及び 保護者70%以上				
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 生徒60%以上 及び 保護者60%以上				
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1: 生徒60%未満 または 保護者60%未満				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。					
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	学校評価 ○生徒アンケート「馬込中学校での生活は楽しい」への肯定的回答率は81%、保護者アンケート「我が子は、楽しく学校に通っている」への肯定的回答率は89%であった(保護者のアンケート回収率は82%)。 ○生徒のアンケートでは、「友だちとは、お互いを尊重して、仲良く生活できている」「運動会・文化祭・宿泊行事等の行事に積極的に取り組んでいる」「委員会活動や部活動に積極的に参加している」のA回答(「あてはまる」)が50%を超えており、多くの生徒が学校生活を意欲的に頑張り、良い人間関係を築きながら、充実した日々を送っていることがわかる。	4: 生徒80%以上 及び 保護者80%以上	4	○多感な時期の子ども達には、とても大事な取り組みテーマだと思ふ。世代を越えた多くの人達との交流が豊かな心を育むのでは。 ○4組さんが近くにいることで豊かな心が育まれていると思う。 ○馬込中の子供はとても素直。全体的に大人しく、ジャイアンツの存在がいない。これから一人一人を大切に育てて欲しい。 ○あまり学校に来れないので、生徒と接する機会がないが、年々大人しくなっている気がする。 ○スクールカウンセラーが、素晴らしい方と聞いている。いじめが少ないからこそ、生徒からの相談をいかに受け止めて、生徒・先生・カウンセラーとの連携により健全化してほしい。 ○肯定的な回答の数字に満足しないで、全先生が、力と目を養って欲しい。 ○会社でも二十歳までは、見守って教育をしているので、生徒にも大人が連携を取り、温かい目で見守ってあげてほしい。 ○保護者にも問題があり、子どもが犠牲になっているケースが増えている。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 生徒70%以上 及び 保護者70%以上				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 生徒60%以上 及び 保護者60%以上				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 生徒60%未満 または 保護者60%未満				
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。					
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	学校評価 ○生徒アンケート「進んで身体を動かす、食事で好き嫌いをしない、毎朝朝ごはんを食べるなど、比較的健康的な生活を送っている」への肯定的回答率は82%。 ○保護者アンケート「我が子は、進んで身体を動かす、食事で好き嫌いをしない、毎朝朝ごはんを食べるなど、比較的健康的な生活を送っている」への肯定的回答率	4: 生徒80%以上 及び 保護者80%以上	3	○生徒アンケート「進んで身体を動かす、食事で好き嫌いをしない、毎朝朝ごはんを食べるなど、比較的健康的な生活を送っている」への肯定的回答率は82%。 ○昨年度までは、学校の独自取り組み指標を「体育授業時に筋力トレーニングを継続して行い、自己の体力向上に関心を持たせ、年間を通して体力向上に取り組ませる」としていたが、十分に達成できているため、今年度から全教員が生徒の主体的な活動を推進し、「総合的な体力」向上に向けた役割を分担して担うことを目標とした。次年度以降も引き続き全教員で生活習慣の確立や行事への取り組み、自治活動などを通して生徒の「総合的な体力」の向上に努める。 ○今年度は、食育とオリンピック・パラリンピック教育を連動させ、文化理解教育に取り組んだ。次年度はさらに多くの分野でオリンピック・パラリンピック教育を推進する。	
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 生徒70%以上 及び 保護者70%以上				
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 生徒60%以上 及び 保護者60%以上				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 生徒60%未満 または 保護者60%未満				
		全教員が部活動や委員会活動を担当し、日常的に身体を動かす習慣をつけさせる。					
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	○授業評価アンケート【授業への取り組み】「すすんで挙手するなど、積極的に授業に参加している」【授業内容】「調べたり、話し合ったり、発表したりする学習活動がある」が両方とも80%以上の教員の割合	4: 全教員の8割以上	3	○授業評価アンケート【授業への取り組み】「すすんで挙手するなど、積極的に授業に参加している」【授業内容】「調べたり、話し合ったり、発表したりする学習活動がある」が両方とも80%以上の教員の割合は75%であった。 ○多くの教員が次期学習指導要領を見据えていることがわかる。また、授業アンケート【授業への取り組み】「先生が話しているときは私語をせず、しっかりと話を聞いている」への肯定的回答率は82%であり、ほとんどの生徒が落ちついて授業に集中できている。その一方、18%の生徒が落ちついて授業に集中できないことがあるということなので、今後も生徒の意欲関心を高め、わかりやすい授業を目指して、授業改善を続ける。 ○今年度はICT機器の活用に関し、全教員がICT機器を活用した授業の公開(校内)を行った。次年度も引き続きICT機器の活用を研究し、指導力を向上させる。 ○今年度は毎月の校内委員会を充実するとともに、講師を招聘して夏季休業中に特別支援教育の研修を行った。今後も特別支援教育の研修を推進し、個に応じた指導力を高める。 ○全教員が区内小中学校の研究発表会に参加して研修を深めた。また一部の教員は長期休業期間等を活用し、都の教育研究会に参加して指導力の向上を図った。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 全教員の7割以上				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 全教員の6割以上				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1: 全教員の6割未満				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。					
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	学校評価 ○保護者アンケート「学校は、積極的に保護者や地域との連携をとっている」への肯定的回答率は81%であった(保護者のアンケート回収率は82%)。 ○馬込中学校では全学年が毎週「学年だより」を発行している他、学校だより、生徒会新聞「蛍雪」など合計11種類の通信・新聞を通して学校の教育活動についての情報を常に発信している。その一方、HPを通しての情報発信は十分ではなかった。今年度は12月にHPをリニューアルし、現在は学校だよりや行事の案内をHPでお知らせしている。また、生徒の活動をお伝えする「馬中ダイアリー」を週2回程度のペースで更新している。今後もHPを通じた情報発信に力を入れ、地域の方々や小中学校の保護者にも情報を届けるよう努める。 ○今年度も地域の協力を得て5日間の職場体験を実施した。また、地域防災訓練に1年全員が参加し、地域清掃のボランティアにも毎回100名近い生徒が参加している。今後も生徒のボランティア活動を推進し、地域社会の担い手としての自覚を持たせるよう指導する。	4: 保護者80%以上	4	○地域行事への参加を今後ともよろしくお願ひします。 ○生徒たちが地域行事によく協力してくれる。ボランティアを全校に募り、地域に子どもたちを送り出せる環境を作っているのはとても良いと思う。 ○今年度は、小学校のわくわくスクールにもボランティアで参加してくれた。 ○地域の方に、馬中の生徒と分かるように、「馬込中」と入ったエプロンを作ったのはよい。 ○地域のガーデンパーティや、大桜祭りで、ソーラン部や生徒会も頑張っている。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の教育等に関する具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 保護者70%以上				
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2: 保護者60%以上				
		各学年で毎週学年だよりを発行し、生徒の様子や学校の取り組みを保護者にきめ細かく発信する。	1: 保護者60%未満				
		地域行事、青少年対策委員会主催の行事や地域美化運動等にボランティアとして、生徒を積極的に参加させる。					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。